

# グループ活動における アイデア出しから意思決定までの流れ ファシリテーターとしての教師の役割

川上ゆか(愛知大学)  
yukawakamin@gmail.com



愛大日本発信基礎・応用Instagram

**はじめに**

愛知大学 グローバル人材育成  
https://www.aichi-u.ac.jp/global\_project

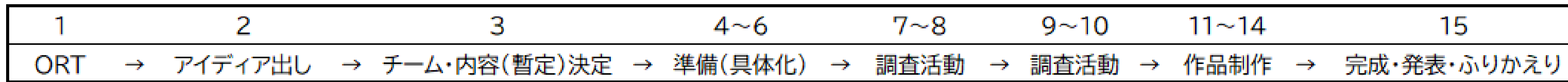
**企業会議**

□ グローバル人材育成(愛知大学 さくら21)

- ・ アクティブラーニング(溝上, 2016)
- ・ 協働学習(池田・館岡, 2022)
- ・ 経験学習モデル(Kolb, 1984)

□ 22春学期 学生参加型・学生主体型授業の実践

- ・ 3チーム(日本人2名+留学生1名)9名
- ・ 企画→調査活動→媒体制作→発信→ふりかえり
- 企画における意思決定はどのようにしているのか?
- 活動を進めるうえで教師の役割として心がけたこと



**第2回 アイデア出し(自己紹介も兼ねて)**

1. 各自小さいポストイットにアイデアをメモ
2. くじ引きで3つのグループに
3. 各自アイデアを説明
4. 大きいポストイットにまとめ
5. ワールドカフェ形式で意見交換・情報共有
6. 元のグループで情報共有
7. 全体でアイデアをシェア

**グループ①**  
CM:ゼミ紹介, 孔子学院  
JF4:商品づくり, ニュース, ドラマ  
JF6:生配信, パラエティ, ラジオ, YouTube

**グループ②**  
JF1:紙媒体(手書き), 日本社会  
JF2:紙パンフレット, 電子掲示板  
JF3:Webサイト, おすすめスポット, 国別比較, 食事,

**グループ③**  
CF:有名スポット, スーパー  
JF5:YouTube, ポスター, ラジオ, 映画  
MM:食べ物・料理

**第2回 発話数(3→4)**

第2回アイデア出し グループ①		第2回アイデア出し グループ②		第2回アイデア出し グループ③	
メンバー	発話数(%)	メンバー	発話数(%)	メンバー	発話数(%)
JF6	161(44.1)	JF2	69(37.5)	CF	69(38.1)
JF4	128(35.1)	JF1	64(34.8)	JF5	48(26.5)
CM	69(18.9)	JF3	43(23.4)	MM	14(7.7)
T	7(1.9)	T	8(4.3)	T	50(27.6)
総発話数(分)	365(11'40)	総発話数(分)	184(8'50)	総発話数(分)	181(9'30)

**第3回 対象・媒体・内容の決定(暫定)**

1. 著作権・作品制作の注意点について説明
2. 第2回目と同様の流れで活動
3. 発信対象・媒体・内容の決定

**実現可能性** **スキルの有無** **著作権** **教員の意向**

**愛チーム**  
媒体:紙のパンフレット  
内容:おすすめスポット紹介(詳細は未定)  
4回目以降に  
大学近くのJICAとコラボ, JICAカフェ紹介に決定  
→6月に他チームメンバーと協働しランチ取材

**ワンチャンチーム**  
媒体:動画かラジオ  
内容:方言の紹介(ドラマ形式で)  
4回目以降にラジオ形式に決定

- ・ クイズ形式で方言を紹介
- ・ 「ナシゴレン」クッキングコーナー
- ・ JICAカフェのCM(共通のテーマ)

**三姉妹チーム**  
媒体:ラジオかInstagramリール(Vlogも検討)  
内容:絞り込めず(一日紹介, 音楽, 日中韓比較)  
4回目以降にラジオ形式に決定

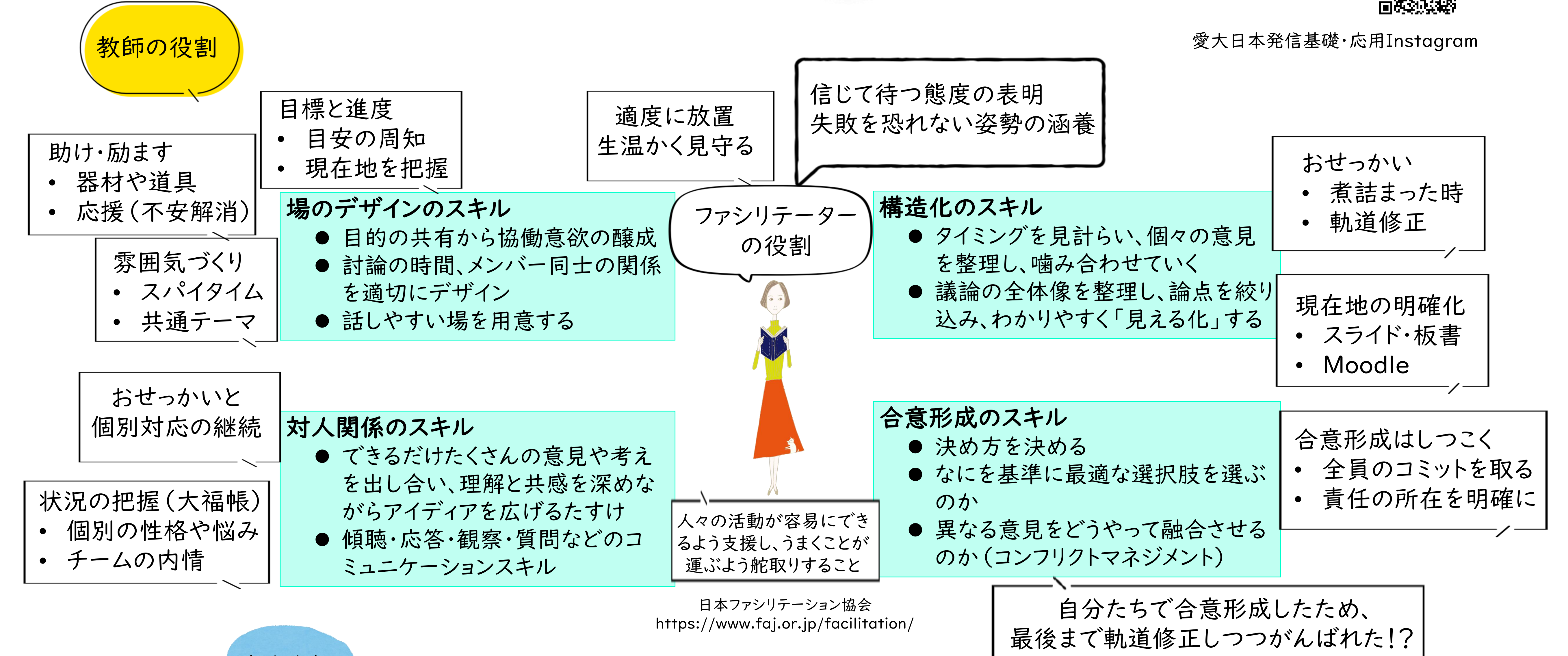
- ・ メイクやコスメについてアンケート調査報告
- ・ JICAカフェのCM(共通のテーマ)

**受講生**

日本人学生
JF1:女性・2年
JF2:女性・3年
JF3:女性・2年
JF4:女性・2年
JF5:女性・3年
JF6:女性・2年
外国人留学生
CF:中国・女性・2年
CM:中国・男性・3年
MM:マレーシア・男性・2年

**第3回 発話数(3→4)**

第3回企画会議 愛		第3回企画会議 ワンチャン		第3回企画会議 三姉妹	
メンバー	発話数(%)	メンバー	発話数(%)	メンバー	発話数(%)
JF1	53(41.1)	JF6	33(41.3)	JF5	23(30.7)
JF2	42(32.6)	JF3	21(36.3)	CF	22(29.3)
CM	30(23.3)	MM	14(17.5)	JF4	21(28.0)
T	4(3.1)	T	12(15.0)	T	9(12.0)
総発話数(分)	129(6'04)	総発話数(分)	80(3'45)	総発話数(分)	75(5'57)



**これから**

**評価・ふりかえり活動の検討**

- 頻度・内容・方法
- ・ 愛知大学グローバル人材育成
- ・ 学士力(文部科学省, 2008)
- ・ 社会人基礎力(経済産業省, 2006)

**チームのつくり方**

- くじ引き
- 興味・媒体別
- 教師決定
- 性格診断

**枠組みの見直し**

- 人見知り解消のため、チーム活動までに段階を踏む
- 前半に複数回座学(多文化共生・やさしい日本語など)を組み込む必要がある

**机上の決定≠現場の最適な答え**

発話数が多い人≠意思決定する人  
=他者の意向を聞く人・話の流れを作る人

**【参考文献】**

- ・ 池田玲子・館岡洋子・近藤彩・金孝卿(協働実践研究会)〈編著〉(2022)『協働が拓く多様な実践』ココ出版
- ・ 溝上慎一(2016)「(理論)大学教育におけるアクティブラーニングとは」, [http://smizok.net/education/subpages/a00002\(daigaku\).html](http://smizok.net/education/subpages/a00002(daigaku).html), 2023.3.9閲覧
- ・ 日本ファシリテーション協会, 「ファシリテーションとは」, <https://www.faj.or.jp/facilitation/>, 2023.1.9閲覧
- ・ 経済産業省(2006)「社会人基礎力」, <https://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/index.html>, 2023.7.31閲覧
- ・ 文部科学省(2008)「学士過程教育の構築に向けて(答申)」, [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm), 2023.7.31閲覧
- ・ Kolb, David. A(1984) *Experiential Learning: Experience as the Source of Learning and Development*, Prentice Hall.

本研究は、JSPS科研費19K13251の助成を受けたものです。